

令和元年度 第2回 大阪市立常盤小学校 学校協議会 実施報告書

校名 大阪市立常盤小学校
校長名 三島 公徳

日 時	令和元年11月25日（月） 午後4時～午後5時15分		
場 所	大阪市立常盤小学校 多目的室		
出席者	委員など	福田雅史（会長） 高岡祥介（委員） 越野滋明（委員） 藤田実由貴（委員） 中定浩（委員） 蔭山純子（委員）	
	校園	三島公徳（校長） 林真美子（副校長） 松本守隆（教頭） 辻野拓也（教務主任）	
	区役所	宮下係長	
議題	(1) 令和元年度「運営に関する計画」中間評価について (2) 全国学力・学習状況調査の結果について (3) その他		
協議要旨	協議の結果		意見の概要
	(1)	・取組内容、評価について、了承を得た。	「子どもが安心して成長できる安全な社会の実現」においては、学校アンケートの「自分にはよいところがありますか」の項目の「いいえ」と答えた児童の割合が5%であった。目標の4%を達成できていないので、中間評価はCとする。学校のきまり・規則を守ることについても含めて、低学年のうちから指導していく必要がある。防災教育や道徳授業については、計画的に実施できている。 不登校児童等について、安全対策会議で共通理解を図るようすすめている。「不登校児童等連絡協議会」が計画通りに実施できていない。早急に日程を調整して開催する。 「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」においては、学校アンケートの「学校の勉強はわかりますか」の项目的肯定的回数が93%であった。学年によりばらつきがあるため、「いいえ」と回答した児童の支援も必要である。 ・体力向上については、昨年から実施している4年生以上を対象の放課後校庭開放を予定通り実施できた。参加者や遊び内容が固定化しているため、引き続き継続的な取り組みが必要である。
	(2)	・理解を得た。	・国語、算数のいずれにおいても、正答率8割以上の分布状況は全国平均を上回っているが、正答率2～3割の分布も全国平均と同等となっている状況から今年度も学力の二極化現象が見られる。学習の基礎基本の定着化を考えら

		<p>れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分には良いところがあると思いますか。」の肯定的な回答の割合が全国平均も下回る結果となった。全国および大阪市の平均を上回っており、自尊感情の育成は、継続的な課題として取り組む必要がある。 ・学校の授業以外の勉強時間は、大阪市平均の2倍以上の数値であるのに対し、「30分より少ない」「全くしない」と回答している児童の割合も全国平均以上の値になっている。学習習慣についても二極化が見られる。
(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜授業における防災学習について理解を得た。 ・児童の学習状況や登下校時の様子などについて、意見交換し情報を共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜授業で自宅在宅時の発災を想定して一時避難所、災害時避難所の場所や行程を確認する学習を行い、まちなか防災などと連携して防災の学習も実施した。地域として児童・保護者が災害への取り組みに大勢参加されるのは防災意識が高まりありがたい。近年の大型台風や地震などを経験し、災害がいつ起こっても対処できるよう防災教育にも力を入れていただきたいという意見も聞かれた。 ・児童の学校での学習や生活の状況について、現在は比較的落ち着いて学習等の活動ができるている。 ・児童によっては、他の児童が指導されたことを自分が指導されたように感じて気にし過ぎる児童がいる。(増えている) ・登校時など、見守りの方等へ挨拶しない、挨拶を返さない児童も多い。不審者への警戒など見知らぬ人との関りを持たないことは大切だが、日ごろ顔を見知っている方への挨拶は、身体的な成長とともにできるようになってもらいたい。挨拶することについて、家庭でも話題にするなど奨励したい。
協議資料	<input type="checkbox"/> 運営に関する計画 中間評価 <input type="checkbox"/> 令和元年度「全国学力・学習状況調査」の結果	
備考	傍聴者[0]名	